

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400230		
法人名	有限会社 祐康		
事業所名	グループホーム鮎乃里 あゆ棟		
所在地	秋田県大館市櫃崎字大道下27-1		
自己評価作成日	令和3年10月26日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを尊重し、ご自分のペースにて自由に過ごしていただきながら、生活のパートナーとして支えるよう支援している。  
施設行事を通して、季節感を感じていただきながら、気分転換もはかれるよう支援している。  
負担のない範囲でできるだけ活動的に過ごせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天井が高く広いスペースで利用者一人ひとりが自分の居心地がよい場所で、自由に落ち着いて過ごすことができる。室温や湿度も管理され、明るく清潔な空間である。利用者一人ひとりを尊重し、それぞれの特性を理解し、思いを引き出しながら寄り添った支援をしている。目前には田んぼが広がり、生育とともに四季を感じることができる。コロナ禍で制限がある中、行事や前などで楽しみを作りストレスが溜まらないよう配慮している。iPadを使用して利用者の状態が共有でき、また体調不良時など過去のデータから原因や医療機関への情報提供などができる。職員も働きやすい環境であり、利用者のケアや事業所の運営など積極的に意見が上げられ、それが職員の意欲や支援の質につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が目につく場所に事業所理念を掲示し、常に理念を意識したケアに取り組んでいる。	施設理念とともに、グループホーム名の『鮎乃里』のそれぞれを頭文字から「あかるく、ゆったり、のんびり、ささえあう、ともに」と具体化し取り組んでいる。わかりやすく職員全員に浸透され共有している。スタッフルームの予定表の隣に掲示し日々確認するとともに、毎月ミーティングの際に振り返り、意識付けを行い実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民が暮らす民家は、近隣にはなく、地域との交流が難しい環境ではあるが、同地区で毎月発行している公民館だよりを定期的にいただいたりし、地域とのつながりを意識している。	自治会に加入している。これまでは新年会など積極的に参加していたが、コロナ禍の影響で現在は行事は行われていない状況である。施設の目の前に田んぼが広がっており、開所時から農家の地域住民の米を購入するなど、稲の生育過程をも含めお互い共有し合っている。また、地域で行われる認知症の講師の依頼があった。日程が合わず受けることはできなかったが、地域で必要とされる役割を担っていくスタンスを持ち合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	現在は、なかなか地域の人々に認知症の人の理解や支援の方法を伝えるのは難しい状況であるが、運営推進会議等の交流の機会があれば、認知症の人の理解や支援の方法は伝えたいと思っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	そのような場で得られた情報を元にサービスの向上が図れるよう努めたいと思っている。	コロナ禍で運営推進会議は開催せず、市や地域包括支援センターに議事録を送付している。以前は情報や助言をもらったり、それぞれの立場から多角的な意見をもらう場となっていた。	市と地域包括支援センターにのみ議事録を送付している。運営推進員のメンバー、民生委員、自治会長、家族などにも送付し、積極的に外部の意見を聴く努力をし、ケアの質の向上につなげることに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーとなっており、協力を得られる関係づくりをしようと努力している。	運営推進会議録を送付し、実情を報告するとともに、相談事があれば直接出向き連携を図っている。認知症の講師の依頼などあり、相互的な関係となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が参加し、身体拘束の適正化に向けた対策会議を毎月のミーティングで行っている。また研修も定期的に行い、理解を深めている。身体拘束の事例はない。前回の課題であった書類の整備を行ったことを確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成担当者、介護職員それぞれの言動に注意し、不適切な対応等あれば、お互い注意し合い虐待につながらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の業務の中で権利擁護に関する必要な情報を収集し、必要があれば関係者と連携するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時には、利用者やそのご家族が理解しやすいように工夫して説明し、それ以降にも不明な点があれば随時対応させていただき、納得してサービス利用できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者やご家族からの要望等を聞く姿勢で日頃から関わりを持っている。	コロナ禍での面会制限はあるが、諸事情を勘案し感染対策を講じた上で面会を行った特例があった。柔軟な対応を行っている。また、利用者からの細かい要望に対しても、検討し対応している。数多くの要望からも、思いを表出しやすいよう工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員ミーティングの場や、それ以外の業務中にも職員からの意見を聞き、皆が納得できるような運営が続けられるような姿勢をとっている。	利用者の見守りを手厚くするために、シフトの時間を調整したり、10数台あった加湿器を大きな物に変えて給水の手間を減らしたり、その時々課題やリスクから現場の意見を聞き、話し合いながら運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適宜管理者や職員とコミュニケーションを図り、各自が働きやすい職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、職員のスキルに合った研修への参加の機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務の中でサービス向上につながるような意見交換を実施している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等の場でご本人の要望をゆっくり、丁寧に伺い、安心して生活して行けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談等の場で、ご家族の要望や不安な事を傾聴しながら、より良い関係が築けるよう、できる範囲でご要望に応えられるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切に、安心して暮らせるよう、生活のパートナーとして支える事ができるよう支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもできるだけ関わりを持ってもらいながら、家族の絆を大切にして、共に支えていく関係を作っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの郵便局に職員と一緒に利用料金をおろしに行ったり、入居前からのかかりつけ医への通院介助等、できる限り以前からのなじみの関係が途切れないよう支援している。	物盗られ妄想などそれぞれの利用者の周辺症状を理解することで、関わり方を工夫し、これまで行ってきたことを継続できるよう支援している。定期受診の後、自宅近隣をドライブするなど馴染みの場所との接点を持つよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での交流を通して良い関係性がお互い築けるように、適宜職員が介入して支え合って生活できるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後もこれまでの関係性を大切にしている。必要に応じてご本人、ご家族の相談や支援をするよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの関わりの中で本人の思いに寄りそいながら、個別性を重視して、その人にとって適切な支援を検討している。	ゆっくりと話せる時間を確保するよう心掛け、日常の会話から利用者の思いを汲み取っている。また、把握が困難な場合は、本人の視点で話し合い、共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境に近い生活ができるよう、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有しながら現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望に沿った支援が出来るように介護計画を作成している。	毎月ミーティングの際に、介護計画の内容について話し合いをしている。一人ひとりの生活動作、リスク、介助方法など現場の職員からの気付きや意見、アイデアを話し合い、介護計画に活かしている。変化があった場合は、速やかに見直しを行っている。また、介護計画書は他の書類と色を変え、すぐに確認できる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等を職員間で情報共有しながらケアの実践や介護計画の見直しをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源があれば、確認し、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診介助を実施し、その他必要な受診についても適宜ご家族と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診介助は基本的には職員が対応し、市内の病院などかかりつけ医の継続を支援をしている。薬局は1ヶ所に集約することで、利用者一人ひとりの状態を把握し、その上でアドバイスや相談できる関係となっている。歯医者や協力医院のインフルエンザの往診などある。家族には、定期受診にて変わりなければ毎月の報告とともに、また特変時は都度報告し共有している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜看護師の資格を持った職員に相談し、適切な対応や受診が出来るよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安全にできるだけ自立した生活ができるように居室やトイレをわかりやすいよう工夫している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を随時説明して、利用者様とご家族が不安なく生活できるよう支援している。	かかりつけ医が一人ひとり異なることなど協力体制の構築が難しく、看取りは行っていない。入所の段階から事業所でできることを説明し、状況変化に応じて話し合い、家族、職員が方針を共有している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応についてマニュアルを作成し、全職員がいつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、隣接するショートステイと合同で水害想定での避難訓練を行い、地区の公民館へ避難する訓練を行っている。	火災、地震、水害、またそれによる避難所への移動避難など様々な想定で訓練を行っている。食料や水、ストーブなど備蓄がある。	不十分と感じている備蓄、夜間外灯がないことへの不安、また事業所の前には水路など危険箇所がある。日々また繰り返し訓練を行う中で、有事に備え課題を捉え検討してほしい。併せてコロナ禍で取り組みができなかった前回課題となった地区住民の協力体制についても検討することに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重するよう心掛け、適切な声かけや対応を実施できるよう、全職員が注意してケアを行っている。	基本的には年長者としての経緯を払い敬語で話すよう心掛けている。信頼構築の上、敬語をくずし場をやわらげ自己決定や思いを引き出すなど状況により言葉がけをしている。入浴の同性介助や居室には利用者と一緒にするなど一人ひとりの思いから配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を自ら表せるような対応を常に心がけながら支援を行っている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いせず、個人のペースで生活できるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等、長年使用していた物を使っていたり、本人の希望に沿う身だしなみができるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食べたい物を聞いたり、皆が食べやすいメニューを考えながら、楽しんで食事ができるようにしている。	玄米をその日その日で精米し炊きあげている。物を大切にする文化の中で生きてきた利用者が、中々残すことができず無理して食べて体調に影響があることから、一人ひとりの食事量や形態を細かく一覧にし共有し提供している。食器洗いやもやしのひげとりなど利用者の力を発揮できる場面がある。行事などに合わせ月1回は出前をとり楽しんでる。個々の好みや禁忌食に対して代替えなど対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等を観察しながら一人ひとりの状態等に配慮し、食事形態や食事環境の工夫を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの支援を行い口腔状態の観察を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を確認しながら、状態に合った適切な支援ができるよう支援している。	基本的にはトイレでの自立排泄を目指している。一人ひとりの排泄の困難な要因からトイレの場所が分かりやすいよう工夫したり、排泄用品の選択をしたりしている。また夜間はポータブルトイレを使用するなど個別の排泄支援をしている。iPadを使用し一人ひとりの誘導の時間を把握している。また拒否時は無理強いせず時間をおいて誘導するなど心理的配慮を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日身体を動かす機会を作り、水分や食事摂取の状況を確認しながら便秘の予防が出来るよう支援している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調等、利用者様の希望に沿って入浴できるよう支援している。	週2回以上は入浴できるよう支援している。午前、午後行っており、受診や衣類が汚れた時など柔軟に対応している。一番風呂、同性介助、入浴剤の使用、湯温など一人ひとりの好みに応じ体調に留意している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や体調、気分等に配慮しながら、本人の希望通りに休息できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局と連携し、薬の相談ができる体制ができている。適宜薬の副作用や用法、用量についての理解をするよう努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中でなるべく役割を持って生活できるように茶碗拭き、洗濯物干し等を手伝っていただいている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出等は出来ない状態であるが、なるべく気分転換や季節感を感じていただける施設行事を行っている。	戸外に出て日光浴など気分転換を図っている。コロナ禍で外出に制限があり、毎月行事等を行いストレスの軽減、楽しむことができるよう支援している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭の管理ができる方は少ないため、こちらで管理しながら本人の以降に沿った支援ができるよう努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望に沿って電話の支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地が良く、安全で季節感を感じれる空間であるよう努めている。	利用者同士の相性に配慮しながらそれぞれが居心地の良い場所がある。季節を感じることができる飾り付けや月、日、曜日がそれぞれ日めくりとなった大きなカレンダーなど時の見当識に配慮している。2ユニットが自由に行き来することができ、同じ地元同士の利用者が会話を楽しみ自分なりに過ごすことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性等にも配慮しながら、思い思いに過ごせる場所の工夫はしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしていた環境にできるだけ近づけるように、本人、ご家族と相談しながら支援している。	写真や大きな時計、椅子など使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。自宅で過ごしていた時に近いレイアウトにて安心して安全に過ごせるよう配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にできるだけ自立した生活ができるように居室やトイレをわかりやすいよう工夫している。		